

水戸葵陵高等学校医歯薬コース

2015年11月

医歯薬通信 **SANS FRONTIERES** vol.21

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryu.ac.jp/>

はじめに

近年の医学・医療技術の発展には目を見張るものがあります。技術が高度に、精細になるのは喜ばしいことですが、その反面、診断・治療される患者さんの側には、技術によって思うままに操作される「もの」として扱われるような不安や不満も溜まります。医療者の側には、そうした事情を察知する広い視野が求められます。

また、日本でとりわけ顕著な社会の高齢化は、医療にたずさわる人達に、別の意味で広い視野を求めています。診断をカルテに書き込み、投薬を指示したり手術を薦めたりするという輪郭がはっきりした守備範囲から外に踏み出して、心身が弱くなっている高齢者に、活動を支える人達とどのように協力しながら対応するかという人間味が、医療者にも求められているのです。

本校医歯薬コースの生徒たちにもこのような広い視野を持ち、人間味溢れる医療者になってもらいたいという思いで、教職員一丸となって対応しています。医療系大学の出張授業、医師講演会、いのちの学習会、各種ボランティア等を通し医療者としての意識を育てて欲しいと願っています。

葵陵祭・モザイクアート

6月20日～22日まで葵陵祭が行われ、医歯薬コース恒例のモザイクアートが展示されました。

今年のモザイクアートのテーマは「平和」です。今年2015年は戦後70周年ということで、現在の平和が永く続きますようにという想いを込めました。

戦争といえば原爆というイメージが強くあります。日本は唯一の被爆国ということで、私たち3年生が修学旅行で行った、長崎の平和記念公園にある北村西望さんが作成した平和祈念像をモザイクアートの題材にしました。この像は、右手が原爆の脅威を、左手が平和を、横にした足は原爆投下直後の長崎市の静けさを、立てた足は救った命を表し、軽くつぶった目は原爆犠牲者の冥福を祈っています。

今年は例年よりも大きく、医歯薬コースが一丸となって約2ヶ月かけ、A3紙738枚をつかい、縦10m、横7mのとても大きな作品を作り上げました。私たちが先輩から教わったように後輩に伝えるという経験をして、先輩の偉大さというものがわかりました。これまで受け継いできたモザイクアートの伝統をこれからも受け継ぎ、より良い作品を作り上げて欲しいと思います。

(3年 実行委員長)



医学部医学科進学者対象講演会

7月4日、医・歯学部受験専門予備校メルリックス学院長、田尻友久先生をお招きし、医学部医学科進学志望者と保護者を対象とした講演会が実施されました。

「今年、私立医学部に合格する方法 ～親の役割、子の役割～」というテーマでしたが、入試全般に関することや、国公立と私立の入試の違いなど、詳しく説明していただきました。講演会終了後は、本校の医学部医学科合格専門チームリーダーの萩原裕樹教諭から、本校の受験戦略についての説明がありました。



学習合宿

7月19日～22日まで、そして8月1日～4日の2回に分けて行方市にあるレイクエコーにおいて学習合宿が行われました。昨年度から完全習熟度別の講義が組まれているため、前半は医学部をはじめとする難関国公立大学を目指すグループ、後半はその他の国公立大学を目指すグループで実施されました。両方のグループともに朝の6時30分からの自習で始まり、昼間の講義を受け夜の10時30分までの自習と勉強漬けの3泊4日の合宿でした。特に前半のグループでは医学部専門予備校の講師「ぬま口せいいち」先生をお招きし、普段の授業では経験したことのないハイレベルな講義や演習が行われ、受講した生徒は新たな刺激を受け真剣に取り組んでいました。合宿後も学習に対する意識は高く、今年の夏は有意義な休みが過ごせたようです。



サイエンス・イマージョン

8月6、7日の2日間、サイエンス・イマージョンが実施されました。

英語で講義を受け、実験をし、最後に英語で発表するという、科学的な知識や思考と英語力を育てる企画です。

今年は1年生16名が参加しました。最初は慣れない英語に戸惑っていたようですが、理科や英語の先生方の協力もあり、最後には一人一人が皆の前でスピーチできました。とてもよい経験ができました。



教えて先輩！



8月24日、本校医歯薬コースの卒業生の先輩方をお招きし、恒例の「教えて先輩」が実施されました。

医学部医学科、薬学部、保健医療系からは看護、放射線、医療系以外の理系学部に進学した先輩たちから、直にお話を聞くチャンスです。

医歯薬コースの1，2年生はそれぞれ自分の志望に合わせて2つの講座を選択して受講しました。

先輩方は、自分が高校生だった頃の体験や、学習方法などについて、わかりやすくお話してくださいました。同じ学校、同じコースで3年間学び、見事、自分の志望校に合格した先輩の話は、在学生にとってとても身近なものとして感じられたようです。

講座終了後、個別に先輩に質問する熱心な生徒も見られました。先輩方も、親身に答えてくれました。お忙しい中、後輩のために来校してくださった先輩方、ありがとうございました。



1日看護体験・医師体験

7月30日に行われた1日看護体験に参加しました。2人1組の血圧測定から始まりましたが、丁寧に教えて頂き落ち着いて測定できました。その後透析室にて説明があり、週に2～3日の頻度で血液をろ過するのは患者さんにとって大変な負担であると気づきました。改めて患者さんの視点から治療を行う重要性を実感できました。病棟体験では、手浴と足浴の実習があり、看護師は患者さんそれぞれにあった対応をしていると分かりました。最後に患者さんの車いすを押しながら話す機会があり、病院での生活を充実させることも看護師の役目なのだと理解しました。短時間の実習でしたが実りある経験ができました。(1年女子)

推薦図書

「薬学教室へようこそ」二井 将功著（講談社・ブルーバックス）
いのちを守るクスリを知る旅—

薬学博士の筆者がゼロからわかるクスリのすべてについて、10章に亘って分かり易く書いています。何世紀にも渡って使われてきたクスリは、何十億人の命を癒してきました。クスリの効能や副作用、創薬や薬剤師を目指したい君たちへ必見の著書です。長寿社会を迎えた今日クスリとの関わりは切っても切れない存在となっています。クスリの歴史から今日の現状について理解できる入門書としてお薦めの一冊です。



総学発表会

9月5日に2年生の総合学習発表会が行われました。総合学習の時間に、各班ごとに調べ学習をし、パワーポイントを使ってその成果を発表します。現2年生は今年の3月に、現3年生へ医療に関するテーマで同様の発表を行いました。その時の反省を活かして、今回は自由なテーマで現1年生への発表となりました。アニメの実写化をきっかけにした2DCGや3DCGについての発表や、英単語等の覚えたはずのことがいつの間にか忘れていたことに対して、記憶を定着させるためにはどのように覚えたり復習すればよいか研究した発表、また、スマートフォンが自身の健康へどのように影響するのかまとめたり、ホルモンが男女の身体に与える変化をまとめた発表がありました。1年生への発表ということで各班が工夫を凝らす中、心理学などの実験に取り組んでもらって、過去の実験データと比較させたり、身近な話題に関する発表が高い評価を得ていました。

医療や理工系に関係する要素を取り入れながら、専門用語の羅列にならないように注意して、興味・関心を持ってもらえるものを目指して取り組ませました。その結果、随所に聞く側の目線になって配慮したことが活かされた発表となり、教員側の期待を大きく上回る発表を各班が実践してくれました。「調べたことを伝えるのが難しかったけれど、1年生の反応が良かったので嬉しかった。」と話す生徒もおり、生徒一人ひとりが成功体験を1つ増やすことのできた素晴らしい発表会となりました。



医師講演会

10月1日に筑波大学医学医療系臨床医学域の横谷省治先生をお招きし医師講演会を実施しました。「命を救う医療から生活を支える医療へ～人々をささえる医療のプロフェッショナルたち～」というテーマで実際の症例から想定される診断を考慮することや、その医療行為に携わると予想される医療従事者を考える事など、グループワークなどで話し合いをしました。

その後の発表で出た意見をまとめ、先生が現在の医療についてや、患者さんとの関わり方などをわかりやすく説明してくださいました。生徒は講演中改めて感じたことや、新しく学んだことなど、メモをとりながら聞いていました。講演後の質疑応答も時間いっぱいまでたくさん出たり、控え室まで質問に来る生徒もいたり大変有意義な講演会でした。その後の医療従事者を目指す生徒の勉強に対するモチベーションはかなり上がったようです。

